

藻場の変動が磯根資源に及ぼす影響の評価と対策の検討

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 水産総合研究センター
	公開日: 2024-07-17
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010073

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



藻場の変動が磯根資源に及ぼす影響の評価と対策の検討

西海区水産研究所 海区水産業研究部 沿岸資源研究室

研究の背景・目的

- 1. 九州西岸域の藻場では、在来海藻種数の減少、亜熱帯性種の増加、磯焼け拡大など、多様な変化が生じています。
- 2. 植食魚の海藻食害も深刻で、カゴで海藻を保護する以外の策がありません。
- 3. 藻場に依存するアワビなど磯根動物は、資源が大きく減少したまま回復の兆しがありません。
- 4. 本研究は、藻場の変動実態と磯根資源に及ぼす影響を評価するとともに、藻場回復のための方策を提示することを目的としました。

研究成果

- 1. 昨年度までに見出した藻場景観の持続期間に着目した春藻場・四季藻場という新しい類型区分を対象に、それぞれの維持機構を明らかにしました(図1)。
- 2. 春藻場は、全ての枝葉を失っても回復できる一部の温帯性ホンダワラ類と、夏以降はごく小さな状態で過ごす亜熱帯性ホンダワラ類で構成される、魚の食害に強い藻場であることがわかりました(図1)。
- 3. 魚対策は行わず、ウニを低密度に維持し、2の海藻のタネを供給すれば、春藻場は造成可能であることが示唆されました。

- 4. 漁業者グループと、同じ水域において3年連続での春藻場造成に成功、今年度は新たな水域でも造成例を得たことから(図2)、3の仮説が正しいことが実証されました。
- 5. 春藻場はウニやアワビ類に対する機能が期待でき(表1)、磯焼け対策として確実性と実効性の高い対策であることを示しました。

波及効果

- 1. 魚の食害による磯焼け域では、春藻場造成が実現性の高い対策として期待されます。
- 2. 春藻場の形成機構が分かったことは、今後の温暖化などによる藻場への影響評価に役立つと期待されます。

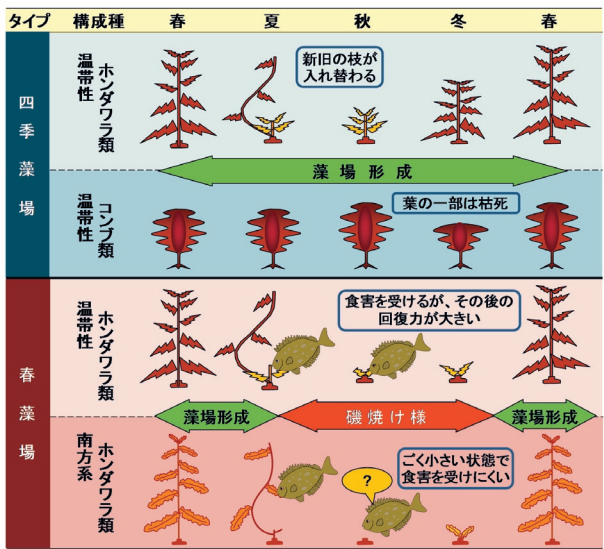


図1. 四季藻場と春藻場の景観変化の模式図

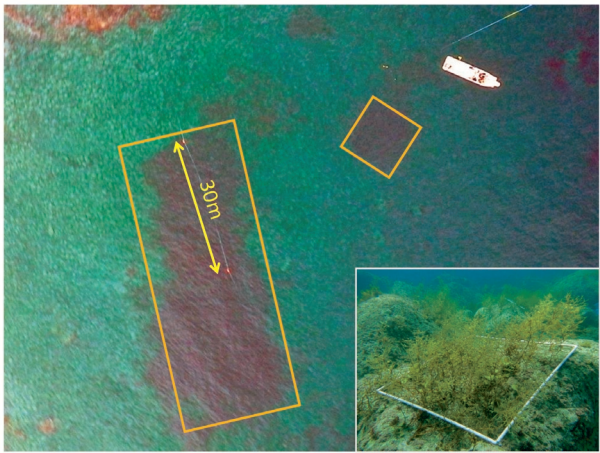


図2. 新たに取り組んだ春藻場造成試験区の上空写真(2010年11月)と、右側区における海底の様子(2011年3月)

表1. 藻場のタイプ・対象動物別の機能性

磯根資源	藻場の機能性		
	理想的	機能限定的	機能せず
アワビ類 索餌場	四季藻場 春藻場(クロアワビ) ワケ場(クロアワビ)	春藻場(幼アワビ) ワケ場(幼アワビ)	磯焼け アサ場
イセエビ 保育場 サザエ 索餌場	四季藻場 テングサ場 四季藻場 テングサ場	春藻場 アトクメ場 春藻場	一年生藻場 磯焼け 一年生藻場 磯焼け
ウニ類 肥育場	四季藻場 春藻場(ムラサキウニ) 一年生藻場(ムラサキウニ)	春藻場(アカウニ) 一年生藻場(アカウニ)	磯焼け